2018年7月17日から22日まで、研究科の学生6名を引率して、シンガポールのＩＦＬＡ国際会議に行きました。ＩＦＬＡというのは、International Federation of Landscape Architecture という国際的なランドスケープアーキテクチャー、つまり造園関係の組織です。

グローバルな連合で、現在、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋地域の76の国における組織と、中東の新興地域から代表が選出されています。IFLAの使命は使命は、世界中の人類の利益のために、世界的に持続可能でバランスのとれた生活環境を作り出すこととされています。

正会員は世界中で約2万5千人の造園家が所属しています。実際の造園家の数はその約3倍です。新しい、前向きな思考とより効果的な組織を創り出すために重要な変革を経てきました。

このアジア・オセアニアリージョン（アジア・オセアニア諸国のエリア）とワールドリージョン（世界エリア）が合同で開いた会議が今回の世界大会です。

学生たちは、2年生と1年生がそれぞれ3名ずつ計6名で、渡航前から、シンガポールの都市計画、歴史、植物園、ガーデンズインザベイ、そしてこの国際会議出席に関する様々な下調べと準備をしてきました。

１日目は、それぞれの航空手段によって、シンガポールのＹＭＣＡの宿泊所に集合しました。最終便でついた人もいました。

２日目は、Bay Frontのコンベンションセンター（国際会議場）に赴き、早朝から登録に並びました。会議は、いくつかのセッションに分かれていましたが、最初は、開会式から始まる、大規模なものでした。

写真（集合写真）

セッションは、Basophilic, Smart City, Resilienceといった、３つのテーマから成り、生物多様性や、グリーンインフラといった緑を基盤としたまちづくり、新しいシステムの都市づくり、そして、持続可能なまちづくりや震災復興などのテーマに分かれていました。

教員の林まゆみは、Resilienceのセッションで、東日本大震災における復興支援活動について発表しました。

写真２

写真３

３日目は、それぞれ、テクニカルツアー、植物園見学、まちなみ見学などにグループで別れて行動しました。テクニカルツアーでは、コンクリート護岸を改修した湿地保全型の河川などが印象的でした。

写真４

また、公園の見学では、車椅子のまま乗れるブランコや、親と小さな子供が向き合って乗れるブランコなど、バリアフリーの取り組みが印象的でした。

４日目は、全員でガーデンズインザベイを見学しました。

園芸的なグラスハウス、霧で覆われたクラウドフォレストなど圧倒的な大きさの温室に学生たちも目を見張りました。

写真５

また、ガーデンフェスティバルも同時開催されていて、興味深い出展を見て歩きました。

充実した４日間の訪問を終えて、最終日はまた、各自帰国の途につきました。